

1 計画策定に当たって～背景と趣旨～

本県は、雄大な猪苗代湖や大小さまざまな裏磐梯湖沼群をはじめ、豊かで良好な水環境を有しており、四季折々に水と緑が織りなす風景など、数々の自然の恵みは、私たち共有の貴重な財産となっています。

また、先人たちは豊かな森林と共生しながら水を慈しみ、水の恩恵に感謝しながら、さまざまな知恵や技術によって、水と一緒に暮らしてきました。私たちが今、水を豊富に使うことができるのは、そうした先人たちのおかげでもあります。

けれども、私たちは高度経済成長期に、便利さや効率を優先するあまり、自然から遠ざかった都市型の生活を求め、身近な川や水源である上流の森林のことを忘れてしまいました。その結果、自然の持つ浄化能力を超えて水を汚し、流域※の健全な水の循環※システムを阻害することになりました。

これを取り戻すため、県では、これまで様々な施策を行ってききましたが、こうした取組みを一層促進するため、治水や利水、環境保全といった従来の縦割りの施策ではなく、産学民官が幅広く連携し実践的に問題の解決を図る「超学際的視点」で、本プランを策定しました。

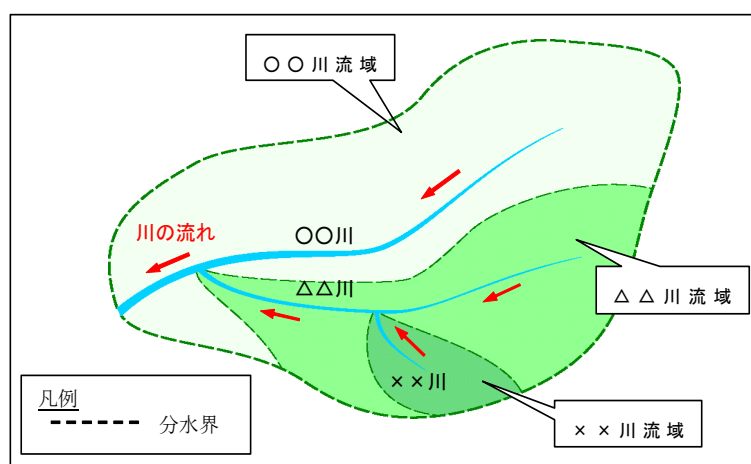


水循環イメージ

本プランにより、50年前のような水と人との身近で良好な関係を取り戻し、「健全な水循環」の継承に取り組んでいきたいと考えています。

大きな川の流域は、小さな川の流域が集まって形成されていることから、水の問題に取り組む際には身近な流域から始めるとともに、上流と下流の流域の住民や県をはじめとする行政が広域的に連携して進めていくことが重要です。

水環境保全の取組みは、効果が現れるまでには長い年月がかかりますが、産・学・民・官が知恵を出し合い、できることから一緒に実践していきたいと考えています。



流域の概念図

※ **流域** 降った雨が川に流れ込む範囲のこと。また、その境を分水界と言います。

※ **健全な水循環** 流域を中心とした一連の水の流れの過程において、人間社会の営みと環境の保全に果たす水の機能が、適切なバランスの下にともに確保され、人間及び生物が水の恩恵を持続的に享受できる状態。